

令和元年度事業報告

令和元年度事業計画（令和元年4月1日～令和2年3月31日）に基づき実施した事業の概要について報告する。

1 総括（警備員不足対策の推進、警備員教育の更なる充実）

昨年度は、業界の深刻な人手不足問題への対策の一環として、福井労働局と連携を密にし、「サマー求人企業説明会」等の各種取組を積極的に推進した。

また、労務単価向上等の諸対策では、特に、全警協作成による「警備業における適正取引推進等に向けた自主行動計画」の周知、定着化に努めた。

一方、警備員教育の面では、講師陣のスキルアップ促進等により更なる充実に努めた結果、指導教育責任者講習等の平均合格率は88.4%、前年比で15.5ポイントの増加となり、特別講習も平均合格率72.2%、前年比で0.1ポイントの増加となった。

2 組織の充実強化

(1) 会員数

ア 正会員

令和元年度の正会員数は、1社が退会、新たに2社が入会した。

※ 令和2年3月31日現在 計50社（うち1社は9条後段業者）

組織の基盤を強化するため、今後も、労務単価の向上を始めとする勤務環境の改善等に努めながら勧誘活動を促進していく。

（令和2年3月31日現在）

	4条業者	9条前段業者
県内業者数	55社	21社
協会加盟社数	37社	12社
協会加盟率	65.5%	54.5%

（注：協会加盟社数は50社 = 1社は「9条後段業者」）

(2) 業界連携

ア 全国警備業協会及び他県協会との連携

令和元年度は、特別講習等教育事業の効果的な推進をはじめ、適正警備業務の実施、暴力団等反社会的勢力に関する情報収集や排除活動の推進、社会保険未加入問題への対応、「11.1警備の日」の広報活動への取組等に関する連絡調整や各種アンケート調査等を通じ、会員と全国警備業協会等との間で

緊密な連携を図った。

イ 業界会議等への出席

業界の当面の諸課題等を協議するため、次の会議に関係者を派遣した。

月日	場 所	会 議 の 名 称	備 考
6. 5	東京都	全警協理事会、定時総会	会長
6.10	愛知県	春季中部地区警協連合会会長等会議	会長、専務
7. 3	東京都	全国警備業協会専務理事会議	専務
10. 2	東京都	全国警備業協会理事会	会長
11. 5	東京都	「警備の日」全国大会	長谷川理事、専務
11.11	福井市	秋季中部地区警協連合会会長等会議	会長、副会長、理事等
12. 4	東京都	全国警備業協会理事会	会長
1.28	福井市	北陸3県会長等会議	会長、専務
2.13	東京都	全国警備業協会事務担当者会議	主事
2.27	岐阜県	中部警協連合会事務担当者会議	専務、主事

(3) 会議・委員会等の開催

各種事業の効果的な推進を図るため、委員会等を次のとおり開催した。

月日	場 所	会議の名称	協 議 事 項 等	出席者
4.25	協会	公安委員会受託講習講師担当者会議	・令和元年度指教責講習等の講師委嘱と推進要領の協議	会長 専務等
5.10	春江ハートピア	福井テロ対策パートナーシップ推進会議	・テロ防止に向けた講義、訓練視察	専務他
5.14	協会	第1回総務委員会	・理事会提案案件の協議	12名
5.21	協会	第1回理事会	・定時総会上程議案の承認	14名
5.24	県立図書館	県防犯協会総会	・総県防犯協会会	専務
5.27	葵分庁舎	暴追センター理事会	・理事会案件の審議	専務
5.29	福井県 県民ホール	令和元年度定時総会（決算）	・H30年度事業報告の可決 ・H30年度収支計算の可決 ・R元年度事業計画(案)の承認 ・R元年度収支予算(案)の承認	42社 54名
		第2回理事会	・新役員による会長選出	12名
5.30	県合同庁舎	人材確保対策推進協議会	・福井労働局、関係団体等と人材確保対策の協議	専務
6. 4	福井消防局	普通救命講習会	・普通救命講習の受講	50名

7. 2	葵分庁舎	暴迫センター臨時理事会	・理事会案件の審議	専務
7. 6	坂井、丹南 敦賀	サマー求人企業説明会	・業界PRと警備員の募集	6社
7. 7	福井、奥越	サマー求人企業説明会	・業界PRと警備員の募集	6社
7.12	県庁	県安全安心まちづくり 推進会議	・安全安心まちづくり推進旬間 の取組計画	会長 専務
7.13	小浜	サマー求人企業説明会	・業界PRと警備員の募集	専務
	中産大	特別講習講師研究会	・特別講習講師による研究、訓練	20名
7.30	葵分庁舎	不当要求防止責任 者講習会	・暴迫関係講義の受講	40名
8.23	プラザ萬象	暴迫県民大野大会	・暴力追放県民運動への参画	30名
8.28	協会	教育委員会	・警備業法関連規則の一部改正 等を巡る情勢説明等	10名
9. 3	協会	第2回総務委員会	・警備業法関連規則の一部改正 等を巡る情勢説明等	12名
9. 5	協会	第3回理事会	・警備業法関連規則の一部改正 等を巡る情勢説明等	14名
10.11	協会	交通委員会	・安全パトロール実施計画等	12名
10.21	ハローワーク	生涯現役支援セミナー	・業界PRと警備員の募集	4名
10.28～ 29	県内	交通委員会安全パ トロール	・福井県内5地区の交通誘導警 備現場の安全点検	18名
11. 7	葵分庁舎	暴排対策委員会	・R2年度活動方針及び事業計画 (案)の承認等	9名
11.21	協会	労務委員会	・令和元年度「労働災害防止応 募作品」の審査 ・第17回安全衛生大会(案)	11名
11.27	福井	特別講習講師意見 交換会	・特別講習に係る意見交換	21名
1.16	ウェルアオ ッサ	経営者研修会 労働安全衛生大会 新春情報交歓会	・立入検査等の結果に基づく業 法上の運用と留意点 ・来賓、会員等との情報交歓	66名
2.18	協会	教育委員会	・R2年度講習計画等	9名
2.19	産業会館	合同就職面接会	・業界PRと警備員の募集	専務

3. 6	葵分庁舎	暴追センター理事会	・令和元年度事業報告等の審議	専務
3.	書面協議	第3回総務委員会	・第4回理事会上程案件の協議 (令和元年度事業計画(案)及 び収支予算(案))	12名
3.	書面審議	第4回理事会 (予算)	・令和元年度事業計画(案)の審議 ・令和元年度収支予算(案)の審議	14名

3 適正警備業務の推進

警備業務の実施の適正を図るため、全国警備業協会、監督官庁の県公安委員会（県警察本部）、労働局等との緊密な連絡体制を維持し、関係法令の解釈・運用並びに適正警備業務の実施に関する指導・指示を受け、その都度、これを迅速かつ適切に会員宛てに周知伝達したほか、労災事故防止、経営者研修会等の開催、暴排活動への積極的な取組等を推進し、適正業務の実施に努めた。

4 社会的地位向上事業の推進

(1) 警備員教育の充実

警備員の知識技能の向上を図るための「協会が行う現任教育」は、令和元年8月30日、警備業法関連規則の一部改正・交付に伴い、前期のみ計3回実施し、後期の分は中止した。

教育種別	実施月日	受講者数	備考
現任教育(施設警備)	4月16日	23名	
現任教育(貴重品運搬警備)	4月40日	33名	
現任教育(施設警備)	8月20日	13名	
計	3回	69名	

(2) 教育幹部等の育成

ア 全国教育幹部研修会への派遣

株式会社アイビックスの西村裕一氏を研修センターふじのへ派遣、研修を受講させ、新任講師講習(3号、4号)の資格を取得させた。

イ 特別講習現任講師研修会への派遣

特別講習現任講師16名(施設警備業務9名、交通誘導警備業務7名)を研修センターふじのへ派遣、研修を受講(1名保留中)させ、全員が資格を更新した。

(3) 労災防止対策の推進

ア 福井県警備業安全衛生大会の開催

令和2年第17回福井県警備業安全衛生大会を開催（令和2年1月16日）、大会宣言を採択決議し、会員一同が更なる取組強化と令和2年中における『労働災害事故ゼロ』への決意を新たにした。

イ 福井県警備業協会第11回(令和元年度)労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクールの実施及び入選作品の表彰

警備員の災害防止に関する意識の改革・浸透を図るため、啓蒙ポスターの掲示を促進したほか、福井県警備業協会第11回(令和元年度)労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクールを実施し、多数の応募作品の中から優秀作品（ポスターの部1点、標語の部3点）を選考。入選者を第17回福井県警備業安全衛生大会において表彰し、労働災害防止に対する意識の啓発と安全意識の更なる高揚を図った。

5 地域安全確保活動

ア 県安全安心まちづくり運動への参加

福井県及び県警察が提唱する「安全安心まちづくり推進会議」に積極的に参画し、推進旬間中に京福バスの車両前面に「11.1 警備の日」を周知するための広報幕の掲出や、巡回車に防犯広報用マグネット・シールを貼付して、視覚に訴える広報活動を展開した。

イ 大規模災害を想定した部隊編成訓練の実施

令和元年7月13日、「一般社団法人福井県警備業協会大規模災害警備支援隊設置運用要綱」に規定する幹部隊員（特別講習講師）を対象に、大規模災害が発生して県警察から協定に基づく出動要請がなされたとの想定で、災害支援隊の装備品整備訓練を行った。

ウ 暴力団等排除対策活動の推進

当協会は、昭和57年の警備業法改正以降、警備業からの暴力団排除を重点施策として掲げ、取り組んできた。

令和元年度は、7月30日、暴排担当責任者（不当要求防止責任者）講習会を開催したほか、8月23日に大野市内で開催された「暴力追放福井県民大野大会」に暴追委員長以下30名が参加した。また、11月7日、当協会の暴力団排除対策委員会を開催し、県警察本部組織犯罪対策課の担当官から「県内の暴力団情勢」についての説明を受けたほか、令和2年の活動方針と事業計画(案)

を決定した。また、福井県暴力追放センターの理事会等に参画し、最新の暴力団情勢と対策等について情報交換を密に行った。

エ 関係機関、団体等との連携及び支援活動の推進

福井県、県警察が主催する会議や県暴力追放センター、県防犯協会等に対する活動支援及び協力を行った。また、福井労働局との連携を密にし、警備員の募集活動を積極的に推進した。

関係機関名	月 日	摘 要	備 考
公安委員会	4. 25	公安委員会受託講習講師担当者会議	会長、専務、講師
	5. 29	経営者研修会（警備業の適正な実施）	会員
	10. 28 ～29	安全パトロール	交通委員会、 安全パトロール班
	1. 16	経営者研修会（警備業の適正な実施）	会員
県警察本部	5. 10	県テロ対策パートナーシップ推進会議	専務、会員
福井労働局	5. 30	人材確保対策推進協議会	専務
	7. 7～ 7. 13	サマー求人企業説明会	会員
	10. 21	生涯現役支援セミナー	専務、会員
	2. 19	一般人対象の就職説明会	専務、会員
福井県	7. 12	安全・安心まちづくり推進会議	会長、専務
暴力追放 センター	5. 27	理事会	専務
	7. 2	臨時理事会	専務
	7. 30	不当要求防止責任者講習	専務・会員
	8. 23	暴力追放福井県民大野大会	専務、会員
	11. 7	暴力団排除対策委員会	暴排対策委員
	3. 6	暴力追放センター理事会	専務
防 犯 協 会	5. 24	令和元年度（決算）総会	専務

6 警備員等の確保（定着）事業の推進

(1) 警備業界のPR

ア 「警備の日」の周知活動

全国警備業協会が提唱する「警備の日」の取組の一環として、福井県安全安心まちづくり推進旬間と「警備の日」までの期間を含む10月から11月の間、福井市内路線バスの車両前面に「11月1日は警備の日」と書かれた広報幕を掲出し、県民の目に留まる形での広報活動を展開した。

イ 労働局主催の雇用対策への参画

深刻な警備員不足に対応するため、福井労働局との連携を密にし、各種の就職説明会に積極的に参画して来訪者に警備業の紹介や社会に果たす役割等をアピールし、警備業界への就職を勧誘した。

ウ 機関紙「警協ふくい」の発行

部内機関紙「警協ふくい」100部を年2回（夏季号・新年号）、部内外に発行し、業界内の動向を報じた。

また、女性警備員の確保に資するため、「輝く女性警備員」紹介コーナーを活用し、女性にスポットを当てた広報を行った。

(2) 警備員の士気高揚

ア 警備業功労者等の表彰（令和元年5月29日実施）

（敬称略・順不同）

表彰の種別	氏名	年齢	警備業者名
警備業教育関係等功労者表彰	尾崎 真将	39	(株)エスライン
永年勤続者表彰	渡辺 孝行	41	(株)アイビックス
	木本 浩司	50	〃
	杉岡 智美	43	〃
	濱本 進	49	北陸総合警備保障(株)福井支社
優良警備員表彰	伊藤慎太郎	37	(株)アイビックス
	嶋田 慧太	32	〃
	伊部 一徳	38	〃
	山崎 弘己	65	(株)オーイング
	志水 久永	55	〃
	山口 穰	48	〃
	林 俊二	55	(株)ナスカ敦賀支店
	満田 幸弘	47	〃
	中原 正光	37	〃
	川崎 誠一	43	北陸総合警備保障(株)福井支社
	亀井 政男	60	〃
	村井 佑輔	39	北陸総合警備保障(株)福井支社
	山田 宏一	48	(株)アイメル
吉田 智	42	〃	

	林 豊和	50	セコム北陸(株)福井統轄支社
	宮本 慶治	59	〃
	伊藤 哲也	40	(株)アイワン
	村上 隆信	55	(株)エスライン
	川端 隆雄	67	福井ビル管理(株)
	中川 宜幸	39	(株)アイゼン

イ 令和元年度健康増進ボウリング大会(令和2年1月25日開催「絆会主催」)

(敬称略)

開催月日	令和2年1月25日(土)13時30分から			
開催会場	福井市大和田68-1 福井スポーツクラブ WAVE40			
参加者	18チーム54名			
団体順位	優勝	(株)法美社 法美社チーム	得点	983点
	2位	福銀ビジネスサービス(株) BS4Kチーム	得点	889点
	3位	北陸総合警備保障(株) 北陸総合警備Aチーム	得点	869点
個人順位	1位	奥田 光生 (株)法美社	得点	409点
	2位	長尾 輝昭 北陸総合警備保障(株)	得点	338点
	3位	神崎 亘平 (株)オーイング	得点	321点

7 職場環境の改善施策の推進

令和元年度は、警備員の確保対策として、福井労働局との連携を密にし、各種取組(サマー求人企業説明会等)を通じて警備事業者の採用意欲の向上と採用方針の改善等に努めた。

その他、各種表彰の上申をはじめ、交通委員会による安全パトロールや労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクール等による労災事故防止意識の啓発向上を通じ、職場環境の改善を促した。

8 経営者・幹部研修会等の開催

次の研修会を開催し、幹部職員としての見識と資質の更なる向上を図った。

開催日時（場所）	研修テーマ	受講者
R 元年 5 月 29 日 （アオッサ 県民ホール）	福井労働局監理官を講師として招聘し、働き方改革関連法の理解と制度の適正な実施に関する講演会を開催した。	51 名
R 元年 6 月 4 日 （福井市消防局防災センター）	プール監視業務に関し、「普通救命講習」を開催	50 名
R 元年 7 月 30 日 （葵分庁舎）	県警察（主催）と県暴追センター（共催）による「不当要求防止責任者講習会」に参加し、暴力団等反社会的勢力からの隔絶と防衛要領を学習した。	42 名
R 元 1 月 16 日 （ウエル・アオッサ）	県警察本部警備業担当官を講師として招聘し、警備業の展望及び令和元年中の立入検査結果に基づく警備業法運用上の留意点に関する研修会を開催した。	56 名

9 特別講習事業の積極的な推進

(1) 北陸 3 県特別講習講師合同研修会への参加

石川県金沢市で開催された令和元年度中部地区特別講習講師合同研修会（北陸 3 県のブロック開催）に専務及び高橋透主任講師以下、施設及び交通誘導担当講師 7 名が参加し、特別講習の改正点に関する知識、技能の研さんに努め、各講師の教育能力及び実技訓練技能の向上を図った。

(2) 特別講習開催状況

特別講習を次表のとおり計 6 回開催（貴重品運搬 2 級（北三共催＝富山開催）・交通誘導 2 級、施設 1 級、雑踏警備 2 級（北三共催＝福井開催）＝各 1 回、施設 2 級＝2 回）し、受講者総数 254 名、合格者数 185 名、1・2 級平均合格率は 72.8%（前年対比+0.1 ポイント）で、全国平均を大きく上回る実績を収めた。

また、昨年度は受講者数が前年に比べて 27 名増加した。

講習種別	実施別	実施月日	実施会場	受講数	合格数	合格率
施設警備 2 級	事前	5/25・26	中産大			
	本講習	6/ 8. 9	〃	42 名	36 名	85.7%

貴重品運搬 2 級 (北陸 3 県共催 富山)	事 前	6/1・2	県協会			
	本講習	6/15.16	富山開催	26 名	20 名	77.0%
交通誘導 2 級	事 前	6.22・23	免許センター			
	本講習	7. 6・7	〃	63 名	35 名	55.6%
施設警備 1 級	事 前	7.13・14	中産大			
	本講習	7.27・28	〃	55 名	36 名	65.5%
雑踏警備 2 級 (北陸 3 県共催 福井)	事 前	9.21・22	免許センター			
	本講習	10. 5・6	〃	24 名	19 名	79.2%
施設警備 2 級	事 前	10.26・27	中産大			
	本講習	11. 9・10	〃	44 名	39 名	88.6%
計 6 回			総 計	254 名	185 名	72.8%
			1 級	55 名	36 名	65.5%
			2 級	199 名	149 名	74.9%

10 警備員指導教育責任者等講習の実施

公安委員会から委託された警備員指導教育責任者講習(1～4号)及び機械警備業務管理講習を次表のとおり計5回実施した、受講者総数43名、合格者総数38名で、平均合格率は88.4%(前年対比+15.7ポイント)だった。

また、昨年度は受講者数が前年に比べて10名増加した。

講習種別		実施期間	受講者数	合格者数	合格率
1号	新	6.24～7.2	21	20	95.2%
	追	6.27～7.2	2	2	100.0%
2号	新	7.16～7.23	6	2	33.3%
	追	7.19～7.23	1	1	100.0%
3号	新	10.15～10.23	2	2	100.0%
	追	10.18～10.23	3	3	100.0%
4号	新	10.15～10.21	0	0	—
	追	10.18～10.21	3	3	100.0%
機械管理		8.22～8.27	5	5	100.0%
計			43	38	88.4%

令和元年度労働災害防止
標語等コンクール入選者

【ポスターの部】

特選

待て 慣れた作業 その油断

吉 崎 緑 里 氏 (株)ナイガイ

【標語の部】

特選

安全指導に 上下なし
気づいた危険は 迷わず声掛け

上 塚 巧 氏 (株)ナスカ敦賀支店

準特選

安全は みんなで創る 努力の和
築こう 注意しあえる 仲間の輪

尾 崎 真 将 氏 (株)エスライン

労務委員会委員長賞

ハットする それがあなたの 黄信号
リスクを知って 安全対応

田 地 昌 之 氏 (株)アイメル